

烏衣巷（劉禹錫）

朱雀橋邊野百花 烏衣巷口夕陽斜
舊時王謝堂前燕 飛入尋常百姓家

朱雀 橋邊 野草の 花

解説 金陵の町はずれに立つて、夕日の中に飛びかう燕の姿を見つ、六朝の栄華をおもい、栄枯盛衰を嘆じたもの。

烏衣 巷口 夕陽 斜なり

語釈 ※烏衣巷Ⅱ金陵の町の名。 ※朱雀橋Ⅱ朱雀門の外、秦淮にかかつていた橋。烏衣巷の入り口になる。 ※王謝Ⅱ南朝最大の貴族出身の王氏と陳郡出身の謝氏。 ※尋常Ⅱふつうの、並みの。

旧時 王謝 堂前の 燕

※百姓Ⅱ人民、庶民。

飛んで 尋常 百姓の 家に 入る

通釈 かつては都の貴族たちが袖をひるがえして往来した朱雀橋のあたりに、今は名もない野の草花が咲いている。王、謝など大貴族の邸宅が軒を並べた烏衣巷に、夕日が斜めにさしこんでいる。その昔、王、謝の邸宅に巢を作っていた燕が、今は普通の庶民の軒先に、飛んではいつてゆく。